



桂文枝もなじみ客  
小山のお好み焼き

何とかしたいですね

シャッター街

弁天町駅を降りて尻無川へ向かって坂を下り、港通りを渡ってやや行くところ《繁栄商店街》があります。昔はその名の通り、歳末など人がすれ違ってもやっとの人通りでした。今は御多分にもれずシャッター街に。何とか繁栄商店街を盛り立てようと地元の方々があの手この手で努力をされてきました。何年か前にはアーケード

ドの新調もしています。

が、新しい店が開いたと思ったら数カ月後にはシャッターが降りることもしばしば。ここ十年程、高層マンションが次々と建って子育て世代が移り住み、人口は増えたはずなのに客足は伸びません。へラを持って六五年

そんな商店街で六五年前からお好み焼きを焼いてきたのが「おばちゃん、おばちゃん」と誰からも慕われる小山玉枝さん。当年とって九十一歳。今でこそ「へラ」を持ってお好み焼きを焼くことはなくなりましたが、その経歴は相当なものです。

ご夫婦で屋台から始め

三年後にお店を構え、今の住居つきの店舗に移ってきたのが一八年前。お父さんの十三回忌が過ぎた今も店主だった「お父さん」の焼くお好み焼きは大きくて美味しかったと語り継がれています。

息子さん家族が店に立つようになつて久しいのですが今も玉枝さんは「看板娘」。店の前に座ってニコやかにお客様を迎え、談笑されています。お好み焼きの味もさることながら、あの笑顔とお人柄に吸い寄せられるようにお客様が寄ってきている気がします。ほんとに癒されるんです。

「小山お好み焼き店の前に「こやかにピースするおばちゃん」だったので」

文枝もなじみ

「小山お好み焼き店」には大阪のミニコミだけでなく関西メディアも取材にきました。何となくも文枝が地元商店街でなじみの存在だったから。文枝の子ども頃から小山さんは「小山のおばちゃん」だったので」

